

教育による「消滅可能性都市」からの脱却

～大館ふるさとキャリア教育の12年の軌跡～

地域の
特色ある
活動

秋田県大館市教育委員会

1 「ふるさとキャリア教育」の起点

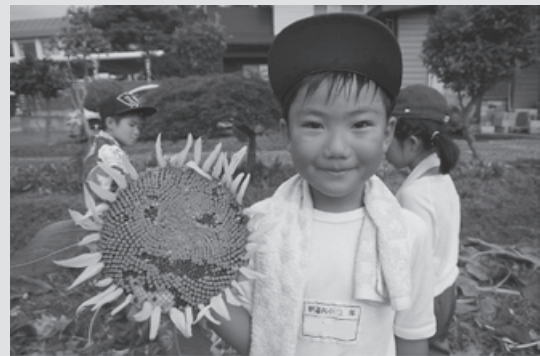
大館市は、秋田県北部に位置し人口約6万8千人、人口減少、少子高齢化などの社会的課題を抱えた地方都市です。2011年度から、「消滅可能性都市」からの脱却をめざし、独自の「ふるさとキャリア教育」を根幹に教育を推進しています。郷土への誇りと愛着を醸成する「ふるさと教育」と、よりよく生きる力を育む「キャリア教育」を融合し、「少数精鋭の街大館」を構築すべき「未来大館市民」の育成、この一点に焦点を絞り、取り組んできました。「人財」育成が目的なので、「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトをもって、就学前教育から県立高等学校、地元大学までを貫く「縦の一貫」と、地域社会、地元産業界との「横の連携」態勢を構築しています。

以来12年経過し、当時小学校1年生だった子どもたちも高校3年生となり、間もなく「未来大館市民」として続々と社会にデビューしてきます。13年前には50%に満たなかった高校生の地元就職希望率も、今年度はついに80%を超えるまでになっています。何よりも、子どもたちの姿を通して、大館の未来を語れるようになりました。この節目に、大館教育12年の軌跡とともに、子どもたちと教員・市民が輪になって奏でる「学びのシンフォニー交響学」の世界をお伝えします。

2 「ふるさとキャリア教育」の3本柱

①「百花繚乱作戦」

「百花繚乱作戦」は、各学校がそれぞれの地域や学校の特徴を活かして展開する活動の総称です。小学校では主にふるさとに学び誇りを育てる「大館市民基礎力」、中学校では社会への貢献活動をメインとした「大館市民実践力」の育成をねらいとしています。各校長がそのマネジメント力を発揮する場でもあります。多様な活動が展開されていますが、その一例が、子どもたちが地域住民と協働してひまわりを栽培し、搾油した油を商品化して販売し、その収益金で6年生が北海道にて漁村体験をするという「釈迦内小サンフラワープロジェクト」です。



②「子どもハローワーク」

「子どもハローワーク」は、子どもたちが、休日や夏休みなどを活用し、希望する市内の職場やイベントなどで働く体験ができるという市教委独自の事業です。企業や団体からの「募集表」は、随時、全小中学校の専用コーナーに掲示され、希望する子どもたちが自ら

申し込み、個人として参加します。学校にはほとんど負担をかけることなく、希望制なのでミスマッチやトラブルもありません。例年、150件を超える募集があり、延べ2千人ほどの小中学生が参加し、その記録が「キャリア・パスポート」に蓄積されていきます。この積み重ねがキャリア発達を促し、自らの進路を選択する際の確かな指針となります。



また、「未来人財プロジェクト」は、未来の大館に欠かせない専門職（医師、薬剤師、教師、技術者等）を意図的に育成する事業です。これらの「人財」を自前で確保できなければ、地方小都市の自立は望めません。近隣の大学や病院と連携し、中高校生を対象に、「フューチャードクター・セミナー」や「キャンパス訪問」、「教師ミニミニ体験」などを実施しています。これまで撒いてきた種子が着実に育ち、近年、研修医や教員として大館に還ってくる若者たちがしだいに増えています。

③「おおだて型授業（響学）」

「おおだて型授業（響学）」は、「教学から響学へ」をテーマに、8年前から進めている授業イノベーションです。小中9年間の授業を、「キャリア能力を培う場」と位置づけている点が特色です。「学ぶ意義」を基盤とする高い学習意欲を推進力に、「共感的・協働的学び合い」の力を磨き上げることで、最終目標とする「幸いに至る授業」にアプローチしています。「授業は、見通しという地図を片手に、みんなで学び合い、助けあひなが

ら、知識という宝を発見する冒険だ！（小学校4年生のふりかえり）」が、この響学の本質と魅力を表しています。その学習効果については、高い数値的学力の維持のみならず、自己肯定感や社会的貢献意識等の人間力を培う観点からも有効であることを実証できました。そのことから、次世代型授業のプロトタイプになり得るものと自負しています。



3 「教育のイーハトーヴ」へ

12年前に、私たちは滅亡の谷への一本道から脱却し、「坂の上の雲」に至る急斜面へと取り付きました。それから9年目、一つの高みに達した時、目の前に広がっていたのは子どもたちを中心に希望と幸いが渦巻く世界、「教育のイーハトーヴ」でした。権力や財力には、一時的に人を動かす力がありますが、人を変える力、幸いをもたらす力はありません。それができるのは、教育だけなのです。全国の同志の皆様は、ぜひ一度、大館にお越しください。



教育長
高橋 善之